

株式会社東陽テクニカ (東証プライム：8151)

2023年9月期 決算説明資料

2023年11月8日

“はかる”技術で未来を創る



1. 2023年9月期 決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2024年9月期 業績予想
4. 資本政策と株主還元およびサステナビリティへの取り組み
5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み

1. 2023年9月期 決算状況

✓ 売上高：

- ・カーボンニュートラル分野の活発な投資が年間を通じて続き、物性／エネルギー事業が牽引
- ・大型案件売上や受注残の納入が進んだEMC／大型アンテナ事業が堅調
- ・機械制御／振動騒音事業のAD／ADAS※1向け米国大型案件が顧客都合により遅延

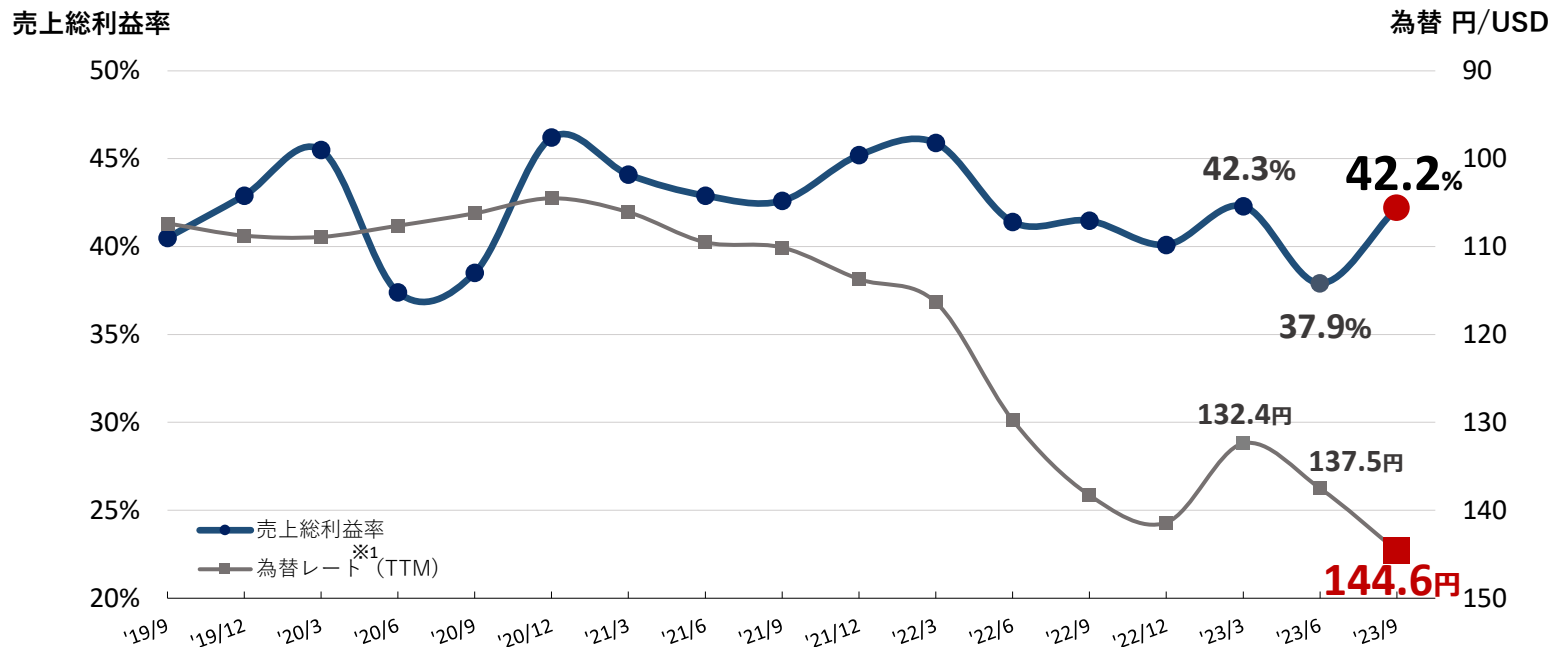
✓ 営業利益：

- ・為替変動による売上総利益率の低下
- ・成長戦略のための人材先行投資、営業活動の活発化などによる販管費が増加

(単位：億円)	2022年9月期 実績	2023年9月期 業績予想	2023年9月期 実績	前期比	
				増減金額	増減率
売上高	264.9	280.0	281.7	+16.8	+6.4%
営業利益	23.3	15.0	14.7	▲8.6	▲36.9%
営業利益率	8.8%	5.4%	5.2%	▲3.6P	—
経常利益	27.7	17.0	18.0	▲9.7	▲35.2%
当期純利益	19.1	12.5	15.3	▲3.8	▲20.1%

※1)AD=自動運転 (Autonomous Driving) ADAS=先進運転支援システム (Advanced Driver-Assistance Systems)

為替は引き続き円安傾向が続くが、売上総利益率は42.2%に回復

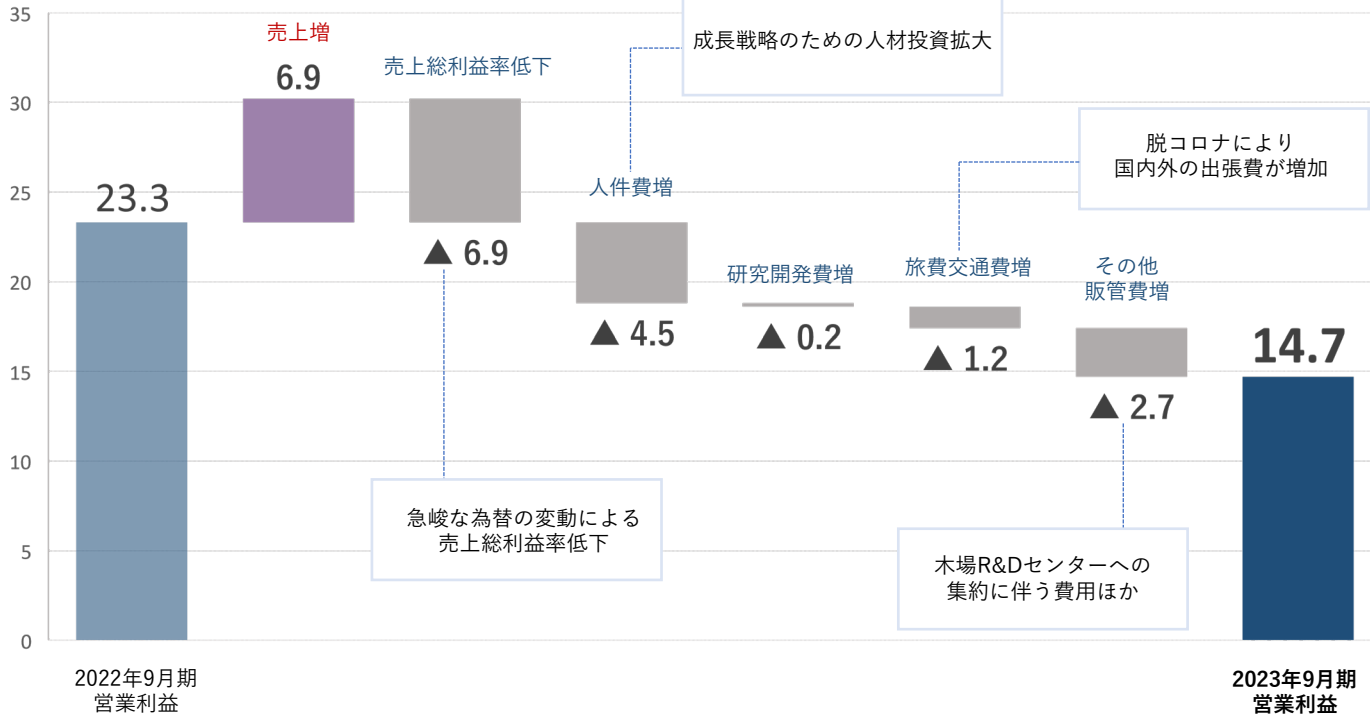


※1：3ヶ月間ごとの平均レート

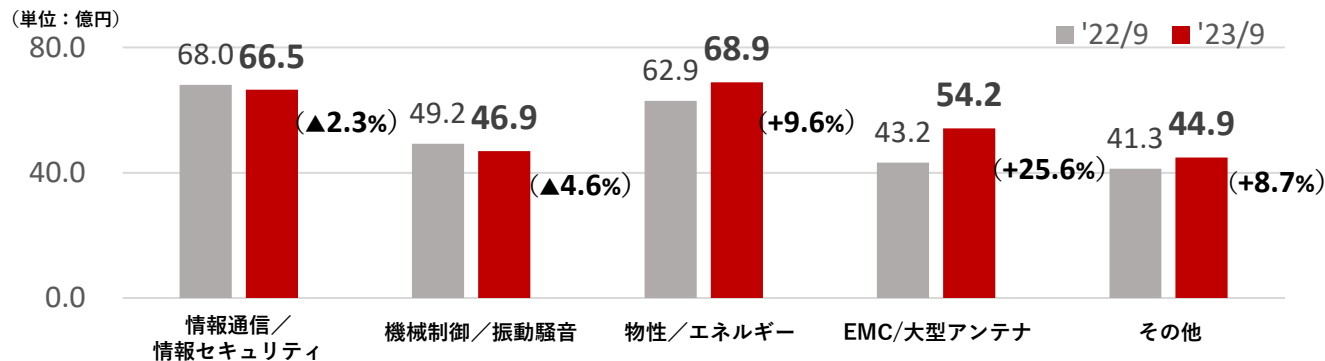
営業利益増減要因（対前年同期比）

為替変動による売上総利益率の低下および、人材等先行投資により販管費が増加

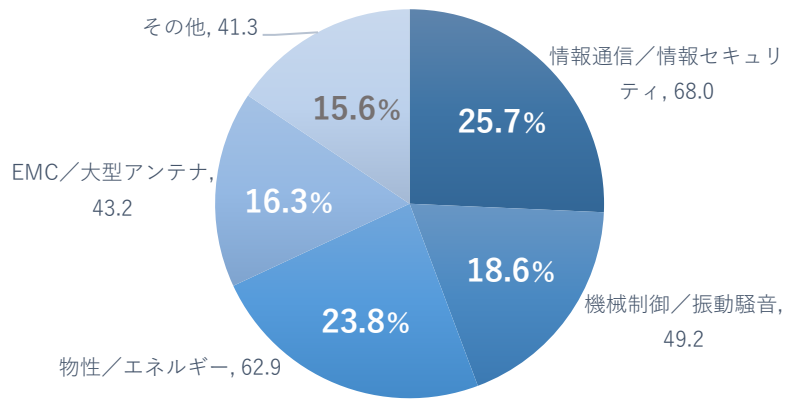
(単位：億円)



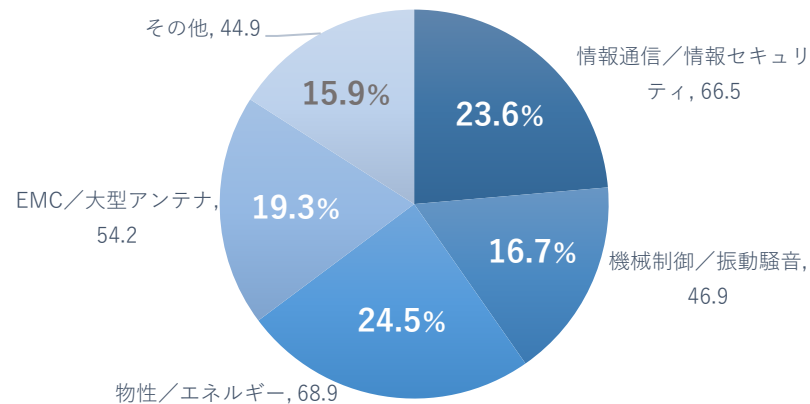
セグメント別売上高 サマリー



【2022年9月期】



【2023年9月期】



※1) [その他]には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

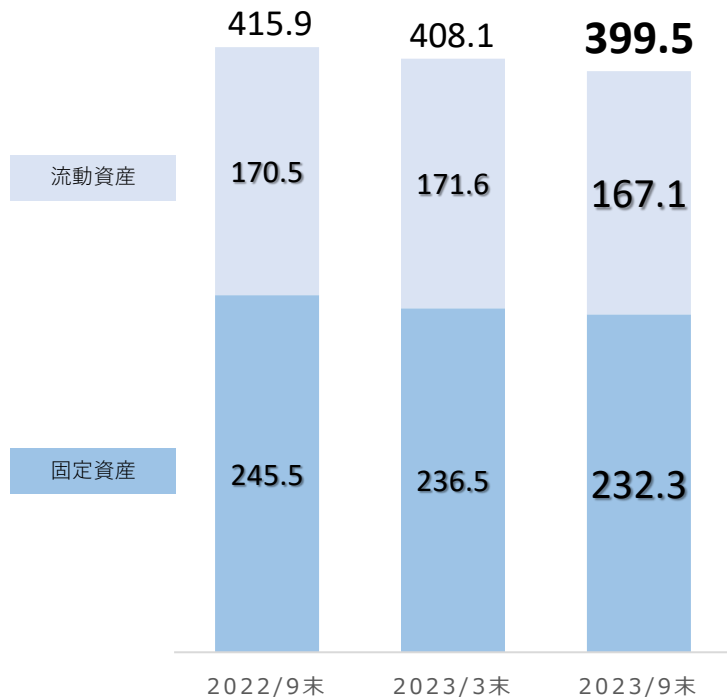
セグメント別 売上高／セグメント利益分析

(単位：億円)		2022年9月期 実績	2023年9月期 実績	前期比		事業概況
				増減金額	増減率	
情報通信／ 情報セキュリティ	売上高	68.0	66.5	▲1.5	▲2.3%	<ul style="list-style-type: none"> ■情報通信分野の5G商用サービス向け試験や設備需要の足踏みにより売上高減 ■売上高の減少に加え高利益率の自社開発製品売上が減少し利益減 ■クラウドサービス分野はサービスプロバイダ案件が好調で売上利益増
	セグメント利益	6.9	2.5	▲4.4	▲63.3%	
	利益率	10.1%	3.8%	▲6.3p	-	
機械制御／振動騒音	売上高	49.2	46.9	▲2.3	▲4.6%	<ul style="list-style-type: none"> ■振動騒音分野での短納期の受注が減少、売上に貢献できず売上高減 ■米国AD/ADAS開発向け大型案件の売上が客先都合で納入に至らず ■期初からの為替変動の影響に加え、低利益率案件の増加により利益減
	セグメント利益	8.9	3.7	▲5.2	▲58.4%	
	利益率	18.1%	7.9%	▲10.2p	-	
物性／エネルギー	売上高	62.9	68.9	+6.0	+9.6%	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続きカーボンニュートラル分野における企業の研究開発投資が活況 ■GI基金関連に伴う大型案件など、全固体電池や燃料電池向けの製品、EV充電評価システム関連の販売が好調に推移し売上高増 ■トータルソリューション提供による競合との差別化が進み利益増
	セグメント利益	13.4	15.1	+1.7	+12.7%	
	利益率	21.3%	21.9%	+0.6p	-	
EMC／ 大型アンテナ	売上高	43.2	54.2	+11.0	+25.6%	<ul style="list-style-type: none"> ■EMC分野での中国市場受注残の納入や大型案件の前倒し納品などが貢献、売上高大幅増 ■Q3に発生した中国での低利益率案件の影響あるもQ4には利益率が正常化、一方で自社開発製品の投資拡大に加え、人件費が増加し利益減
	セグメント利益	2.8	2.7	▲0.1	▲4.8%	
	利益率	6.5%	5.0%	▲1.5p	-	
その他※1	売上高	41.3	44.9	+3.6	+8.7%	<ul style="list-style-type: none"> ■市場回復に伴い、特機分野での大型案件売上などが貢献 ■ゲーム開発やアプリケーションセキュリティ、車載ソフトウェア開発の分野が好調に推移 ■為替変動の影響を受けて低利益率案件売上が増加した事により利益率減
	セグメント利益	7.2	7.2	0	0	
	利益率	17.4%	16.0%	▲1.4p	-	

※1 [その他]には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

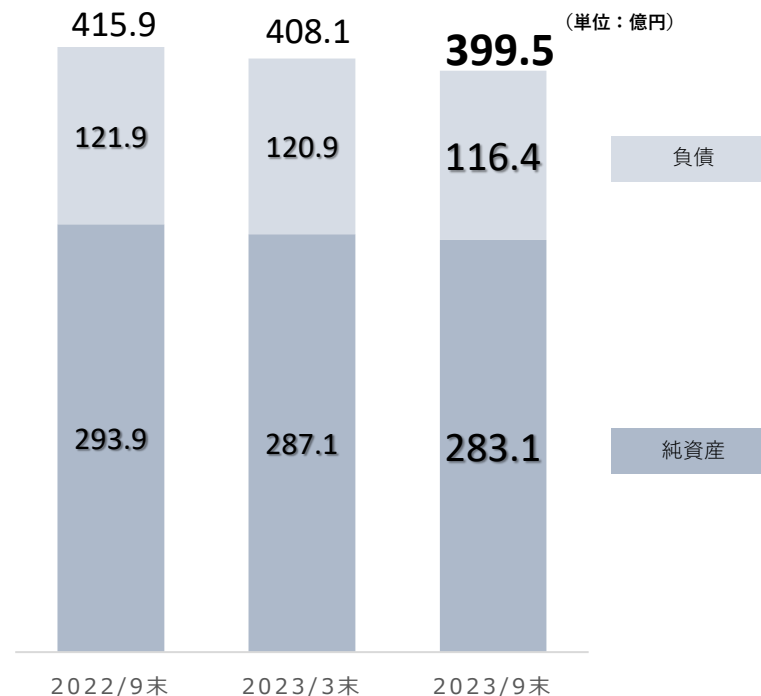
総資産

- 「商品及び製品」の増加
- 「有価証券」および「投資有価証券」の減少



負債・純資産

- 「支払手形及び買掛金」および「契約負債」の減少
- 自己株式の取得による純資産の減少



2. 受注高・受注残高

✓ **受注高：**

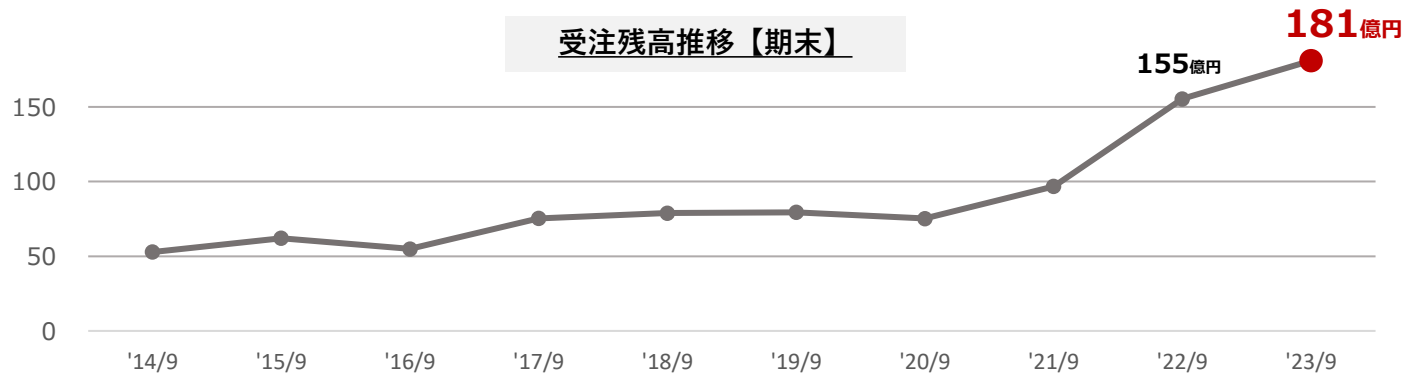
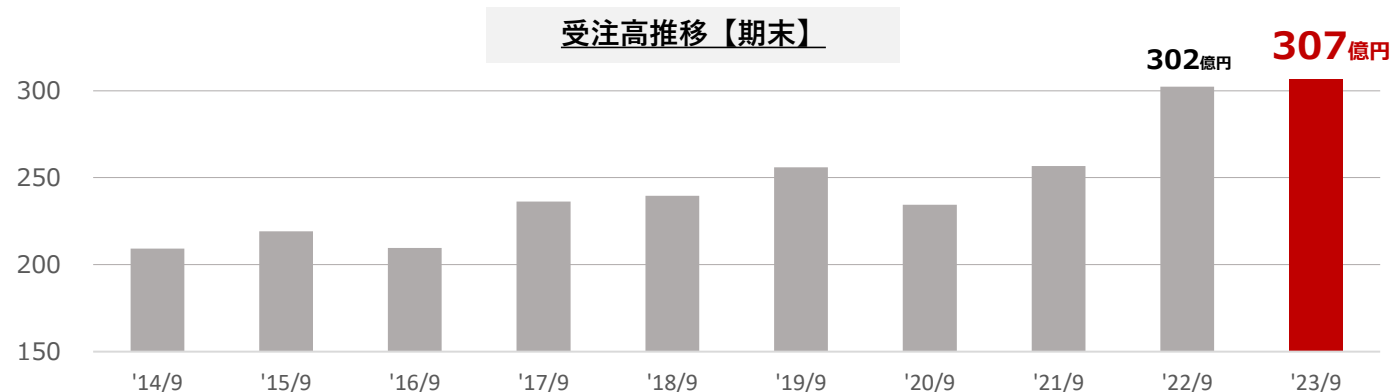
- ・カーボンニュートラルの物性／エネルギー分野や海洋／特機分野が堅調に伸びた

✓ **受注残高：**

- ・EMC／大型アンテナ事業以外すべての事業で前年比増加

(単位：億円)	2022年9月期 実績	2023年9月期 実績	前期比	
			増減金額	増減率
受注高	302.2	307.7	+5.5	+1.8%
受注残高	155.4	181.5	+26.1	+16.8%

近年の推移 - 受注高・受注残高【期末毎推移】



セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：億円)		2022年9月期 実績	2023年9月期 実績	前期比		事業概況
				増減金額	増減率	
情報通信／ 情報セキュリティ	受注高	71.6	70.5	▲1.1	▲1.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■情報通信分野の5G商用サービス向けにおける試験需要が足踏みにより、需要に応じた商品拡充の対応が不足しており受注高は減少したが、受注残高は期ずれした案件などもあり前年同期比増加 ■クラウドサービス分野は引き続き案件好調により受注高・受注残高ともに前年同期比増加
	受注残高	26.4	30.5	+4.1	+15.5%	
機械制御／振動騒音	受注高	61.2	55.1	▲6.1	▲10.0%	<ul style="list-style-type: none"> ■自動車業界の電動化シフトにより従来の振動騒音分野における受注高が減少 ■Q1に受注したAD／ADAS評価試験向け大型案件により受注残高は増加
	受注残高	25.0	33.2	+8.2	+32.8%	
物性／エネルギー	受注高	79.0	90.4	+11.4	+14.4%	<ul style="list-style-type: none"> ■次世代バッテリーの開発と充放電装置のテスト需要増加に加えて、エアモビリティ関連や材料評価分野の新規受注が貢献し、受注高・受注残高についても引き続き拡大
	受注残高	38.2	59.6	+21.4	+56.0%	
EMC／ 大型アンテナ	受注高	52.6	42.2	▲10.4	▲19.8%	<ul style="list-style-type: none"> ■前期大型アンテナプロジェクト関連での大型補正予算案件に相当する特殊需要が当期は発生せず、受注高および受注残高が減少 ■マーケットは横這い傾向、来期は種まきに注力
	受注残高	43.6	31.5	▲12.1	▲27.8%	
その他※1	受注高	37.7	49.4	+11.7	+31.0%	<ul style="list-style-type: none"> ■海洋分野、特機分野ともに市場回復により受注が好調、受注高および受注残高において前年比大幅増加 ■ゲーム関連ビジネスが堅調で受注高および受注残高が増加
	受注残高	22.0	26.5	+4.5	+20.5%	

※1) [その他]には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

3. 2024年9月期 業績予想

事業戦略

脱炭素社会の推進		<ul style="list-style-type: none"> ■物性／エネルギー事業を中心にグリーンイノベーション基金関連などの企業投資は活発 ■急速充電の需要に伴い自社開発のEV充電評価サービスを開始
高速通信環境の実現		<ul style="list-style-type: none"> ■5Gはインフラ設備投資の低調により試験需要は足踏み
リカーリング ビジネス		<ul style="list-style-type: none"> ■情報通信、ソフトウェア開発分野でリカーリングビジネスが増加 ■電気自動車(EV)充電評価サービスの開始 ■M&AによるEMC受託サービスの拡大
技術開発投資 の継続		<ul style="list-style-type: none"> ■ネクスコ東日本エンジニアリングと路面性状計測システム「TN-Twin Tracker」を共同開発 ■AD/ADAS評価試験をはじめとした統合コントローラーシステム「DMTS」を自社開発
M&Aによる 事業拡大		<ul style="list-style-type: none"> ■2023年3月にレキシー社を100%子会社化 初の国内M&Aを実現 ■2023年11月にトーキンEMCエンジニアリング社株式100%取得を決議

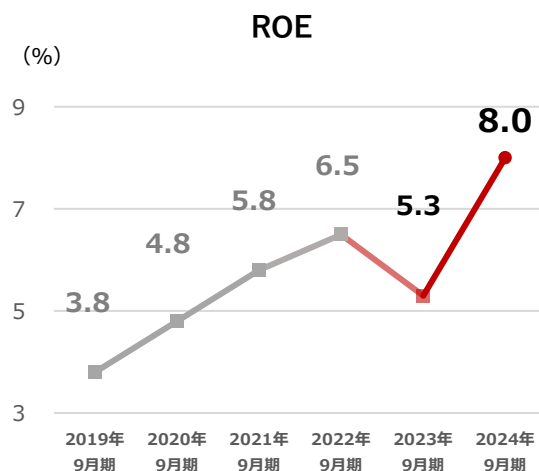
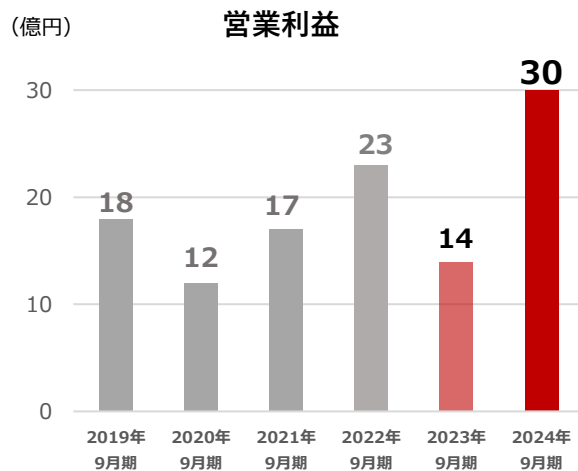
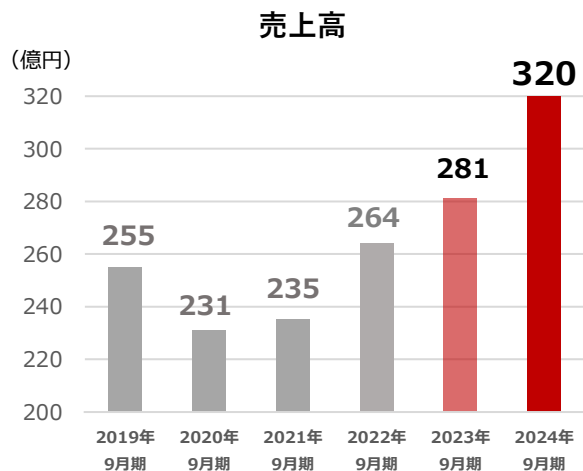
経営基盤強化

- 多彩な人財の育成と活躍：女性管理職比率、外国人管理職比率において前年比増加
- 健全で強固な経営基盤の確立：リスク・コンプライアンス委員会を含め8つの委員会を運営

売上高・営業利益・経常利益・当期純利益ともに前年比増加を予想

(単位：億円)	2022年9月期 実績	2023年9月期 実績	2024年9月期 業績予想	前期比	
				増減金額	増減率
売上高	264.9	281.7	320.0	+38.3	+13.6%
営業利益	23.3	14.7	30.0	+15.3	+103.8%
営業利益率	8.8%	5.2%	9.4%	+4.2P	-
経常利益	27.7	18.0	32.0	+14.0	+77.7%
当期純利益	19.1	15.3	23.0	+7.7	+49.9%
ROE	6.5%	5.3%	8.0%	-	-

- ✓ **中計”TY2024”目標売上高を上方修正、売上高320億円へ**
 - ・ 好調な物性／エネルギー事業のさらなる拡大、積極的なM&Aによる売上拡大へ
- ✓ **営業利益予想は中計目標未達も前年比倍増へ**
 - ・ 円安の継続による仕入額の上昇、成長投資のための人材確保による販管費増加で中計目標35億には届かずだが売上の拡大と高利益率案件の拡充により営業利益は前年比204%を予想
- ✓ **目標値ROE8%は必達**
 - ・ 当期純利益の拡大と積極的な株主還元による自己資本のスリム化を引き続き推進



トーキンEMCエンジニアリング社の株式取得による子会社化

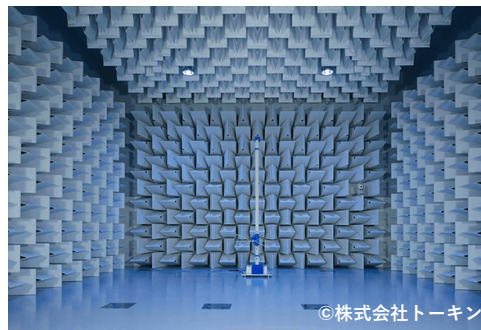
【EMC/大型アンテナ事業】

- 当社およびトーキンEMCエンジニアリング社双方が約40年以上に渡りEMC事業を継続してきた実績
- 国内3か所に電波無響室を備えた計測センターを保有し、
車載製品試験用無響室も整備
- 本株式取得により、認定試験・校正、対策など、EMC受託サービスのシナジーにより、リカーリングビジネスを拡充



©株式会社トーキン

筑波計測センター



©株式会社トーキン

関西計測センター



©株式会社トーキン

川崎計測センター

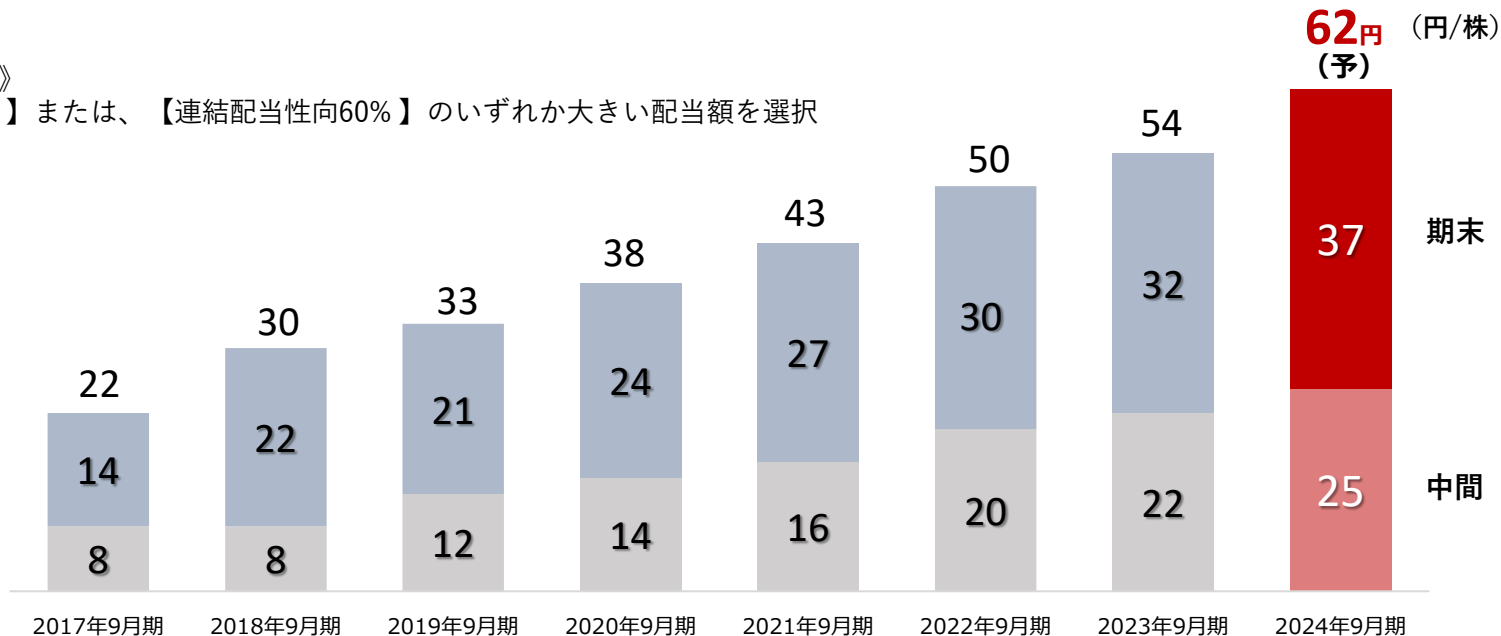
4. 資本政策と株主還元および サステナビリティへの取り組み

資本政策と株主還元：配当予想と配当金の推移

8年連続で増配を実現、今期も最高額での配当を予想

《配当方針》

【DOE※4%】 または、【連結配当性向60%】 のいずれか大きい配当額を選択



※DOE（自己資本配当率）＝ 年間配当総額 ÷ 自己資本

ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に初選定

- 本インデックスは、グローバルインデックスプロバイダーである **FTSE Russell**により構築され、各セクターにおいて相対的に**ESG (環境、社会、ガバナンス)** 評価の高い日本企業の株式で構成される投資指数を反映するためのインデックス
- このたび、「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の**構成銘柄**に初めて選定された
- 今後も事業活動を通じた環境・社会課題解決のための取り組みを推進するとともに、積極的な情報開示に取り組む



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

当社サステナビリティサイトが 全面リニューアルいたしました

デザインの刷新に加えESG取り組みなどより充実した内容とし、
当社のサステナビリティ経営についてご説明しております。

<https://www.toyo.co.jp/sustainability/>



5. 時代を切り拓く“はかる” 技術への取り組み

R&Dセンターに「EV充電テストラボ」を開設 「電気自動車(EV)充電評価サービス」を開始

【物性／エネルギー事業】

- テュフ ラインランド ジャパン社と「電気自動車充電評価サービス」を開始
- 当社木場R&Dセンターに「EV充電テストラボ」を開設、施設内で実車の充電評価も可能に
- さまざまな充電規格に合わせてワンストップでの充電評価試験を実施
- TY2024(中計)における「リカーリングビジネス」のひとつとして拡充を図っていく



EV充電テストラボ

参照URL：当社ニュースリリース(2023年9月21日)
[東陽テクニカ、テュフ ラインランド ジャパンと「電気自動車\(EV\)充電評価サービス」を開始](#)

一般建設業取得に続き「特定建設業」の許可を取得 設置工事を伴う大型システムも直接提供

【EMC/大型アンテナ事業】 【物性/エネルギー事業】

- 2023年9月付で特定建設業（機械器具設置工事業）の許可を取得
- 近年複雑化・大型化が進んでいる計測ソリューションニーズに応え、設置や据付、電気工事などの設置工事を伴う大型計測・試験システムがエンドユーザーと直接売買契約することができワンストップで提供可能に
- 今後は電気通信分野などの区分でも建設業の許可取得を推進し、ワンストップでのソリューション提供拡大による販売増加を見込む

参照URL：当社ニュースリリース(2023年10月31日)
[東陽テクニカ、「特定建設業」の許可を取得](#)



パラボラ型アンテナ設置に至るまでのワンストップ提供など
さまざまな計測ソリューションで活用

IR ニュースメール

<https://www.toyo.co.jp/ir/mail-magazine/>



IRニュースメール
配信登録はこちら

当社のIR情報をタイムリーにメールでお届けいたします
ぜひご登録ください

IR サイト

<https://www.toyo.co.jp/ir/>

リニューアル
いたしました



本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先
株式会社東陽テクニカ
経営企画部
toyo-ir@toyo.co.jp